



「大阪大学工業会」 会長退任のご挨拶

大阪大学名誉教授
大阪大学工業会 前会長 鈴木 胖

2021年6月10日に開催された令和2年度総会において私・鈴木 胖（電気昭和33年卒）の会長退任が承認されました。後任には豊田政男理事（溶接昭和42年卒）の就任が承認されました。総会はコロナ緊急事態宣言の中、理事、監事のみ、しかも限られた人数で大阪大学吹田キャンパスにあるセンテラス（後述）で開催されました。

私は大阪大学第12代総長熊谷信昭先生（2018年ご逝去）の後を継いで、2006年（平成18年）6月から15年間会長を務めてきました。当会の運営には1980年代の初めから深く関わってきました。熊谷先生のもと（1997年6月～2006年5月）では副会長として、当会の情報化を進め、1998年には会誌名を TECHNO NET に変更、2003年には TECHNO-NET WEB を開設しました。

さて、当会の名称は「大阪工業倶楽部」（1919年（大正8年）～1967年（昭和42年））、「大阪大学工業クラブ」（1968年（昭和43年）～1970年（昭和45年））、1971年（昭和46年）には文部大臣認可の「公益社団法人大阪大学工業会」に変わりました。ところが、2000年ごろから公益法人制度の問題点がいろいろと指摘されるようになり、2006年5月には公益法人制度を抜本的に改革するための関連3法案が成立し、2008年12月から施行されることになりました。これを受けて、当会も改革を推進するため2007年6月、新しい事務局長として大阪ガス出身の曾根祥光氏（溶接昭和39年卒）をスカウトしました。

2011年度総会において、当会は公益財団法人から一般社団法人に移行することが承認され、2012年4月から当会の名称は「一般社団法人大阪大学工業会」に変わりました。この移行においては、移行当初の当会保有財産（公益目的財産）は公益事業以外には利用できず、そのため毎年度公益目的支出計画実施報告書を総務省内閣府に提出することが義務づけられました。これを明確にするため、当会の事業を公益目的の事業（継続事業1～4）と収益事業（その他事業1～3）及び法人事業に区分し、年度ごとに事業とその収支予算計画、決算報告を行ってきました。2020年度（令和2年度）にやっと移行当初にあった保有財産がゼロになりました。来年度からは内閣府への報告書提出は不要になり、当会の事業展開が自由に出来ることとなります。曾根事務局長は実務を通じてこれらの事情に精通していますので、豊田新会長とも相談し、引き続きその任に当たっていただきます。

私の会長任期の中で、実現した大きな事業は二つあります。

一つは、当会の事務所を大阪大学のキャンパス内に移転することでした。当会の事業を活発化するには、大学

との連携を一層緊密にし、大学の教育研究活動への工業会の支援を学生や教職員に身近に感じていただくことが基本的に重要であると考えたからです。幸い絶好の機会に恵まれました。2014年（平成26年）、工学研究科・工学部は大学本部の協力のもと、工学部地区にある従来の食堂中心の福利厚生会館の耐震改修工事を行い、隣接して6階建ての吹田福利交流研究棟（名称：センテラス）の新設を決められました。当会はこの機会を捉え、総会の同意を得て、2015年3月に資産の一部をセンテラス建設のために贈呈しました。この寄付は先に述べた法人改革における公益目的支出計画に合致します。そして大学当局の了承を得て、センテラス完成後の2017年（平成29年）3月に当会事務局を大阪市内から同棟内に移転しました。

センテラスは6階建て、延床面積約3,700㎡の規模で、1階は食堂の拡張部分、2階は売店など、3階は交流スペース・サロン、4～6階はオープンラボが設けられています。当会事務局は3階の交流スペース・サロンの一画（約48㎡）に置かれています。当会は交流スペース・サロンにおいて、工学研究科・工学部、同窓生、企業の皆様のご協力を得て、新しい事業を積極的に工学研究科・工学部と共催し展開しています。

二つめは創立100周年事業です。2019年（平成31年）3月、当会は創立100周年を迎えました。11月には吹田キャンパスに近い千里阪急ホテルで記念シンポジウム、次いで祝賀会を開催し、出席の皆様から大好評をいただきました。シンポジウム開催については計画段階から、2014年にノーベル物理学賞を受賞された天野浩名古屋大学教授をお招きするなど、当会の森勇介理事（電気平成元年卒）に大変お世話になりました。

なお、翌2020年（令和元年）には「大阪工業会100周年のあゆみと記念シンポジウムの記録」を発刊しました。これは TECHNO-NET WEB でも見ることが出来ます。ちなみに、このWEBは当会事務局の女性職員によって管理され、当会の情報のすべてを網羅しています。当会の定款、役員、イベント情報、決算・事業報告書、会誌 TECHNO NET の2009年4月号以降のバックナンバーの内容などを見ることが出来ます。また当会には有能な事務局によって効率的に運営されていることを、会長退任に際してご報告します。

終わりに、豊田政男新会長のご活躍に期待するとともに、これまでに頂いた皆様のご協力、ご支援に改めて感謝を申し上げます。

（電気 昭和33年卒 35年修士）



「大阪大学工業会」 会長の就任に当たって

大阪大学名誉教授
大阪大学工業会 会長 豊田 政男

令和3年6月に「一般社団法人大阪大学工業会」の前会長の鈴木胖大阪大学名誉教授の後任として会長に新しく就任させていただきました豊田です。この度の会長就任にあたりご挨拶させていただきます。

大阪大学工学部は、官立大阪工業学校が1896年（明治29年）に創立されたことに始まりました。その後、大阪工業大学に昇格して、1933年に大阪帝国大学に編入され、大阪帝国大学工学部が創設されました。再来年の2023年には工学部創始90周年を迎えるという長き伝統を持ち、その間に多くの優秀な人材を輩出してきましたことは、大きな誇りでもあります。このような工学分野の教育機関の卒業生の集まりとして1919年（大正8年）に、同窓会「大阪工業倶楽部」が設立され、その後の卒業生の多大なご尽力で同窓生の集まりとして卒業生のサロンであると共に母校の活躍を支援する活動が行われて参りました。一昨年10月には、100周年記念シンポジウムが実施されましたが、100年の長きにわたる同窓会活動が継続されてきましたことは、同窓生の意識の高さと大阪大学工学部卒という熱い想いの表れと感じております。この長き歴史を持つ大阪大学工業会の事業を引き継がせて頂く身として、前会長の鈴木先生はじめ代々の会長・役員の皆様の多大なご尽力に感謝する共に、責任の重さを感じております。

100年の歴史のなかで、工学研究科・工学部の卒業生の人数は約4万人以上にもものぼり、これらの人々を母体とする当会は大阪大学の部局等の同窓会の中でも最大の存在です。卒業生の皆様が、それぞれの分野での産業界あるいは学界で、指導的な役割を果たしてこられたこと、更には今後も先導的役割が期待されていますことはいうに及びません。このような大きな背景を持つ同窓会が、同窓生及び大阪大学工学研究科・工学部の更なる発展に寄与できる組織であることが期待されています。

大阪大学工業会は、組織の改編や事業の見直しが行われ、現在は、当会は定款に従い、公益継続事業と共益事業（同窓会活動）という二つの事業を実施し、講演会・講習会などを通じた科学技術の振興並びに知識の啓発活動、母校の大学における教育・研究活動への援助及び在学生への奨学や、母校の発展と会員相互の親睦・交流をはかる活動などを行って参りました。

このような事業を実施してきました大阪大学工業会を引き継ぐに当たって、昨年来の新型コロナウイルス感染症COVID-19は、ニューノーマルという大きな変革を社会ももたらしめていて、産業界の事業形態、更には大学における教育研究活動の変革などの動きもみられるなかにあつて、同窓会活動のあり方にも新しい対応も求められているといえます。

今後の活動には、会員の皆様や役員の皆様のお力をお借りしつつ、同窓会の基本である、同窓生会員の交流を活かした事業と共に、同窓生としての意義が大きな母校大阪大学工学研究科・工学部の発展につながる事業に重点を置いて活動できればと考えております。母校が優秀な工学人材を社会に送り出すことにつながる「素晴らしい人財の養成」を支援することが最大の役割であると考えており、「社会と学生をつなぐ同窓会活動の見える化」を目指していきたく考えております。

大阪大学工業会の会長をお引き受けするにあたり、鈴木前会長のご尽力に改めて御礼申し上げますと共に、引き続き「同窓生のための同窓会」、「母校のための同窓会」となることを目指して活動していきたく、引き続き会員の皆様の温かいご指導・ご支援をお願い申し上げます。

（溶接 昭和42年卒 44年修士）